

(5) 巣鴨の流れに身をまかせて：チーム 19.7

19.7の提案

白山通りの拡幅が地蔵通りにとって、巣鴨にとって、マイナスに作用するのではなく、この街のこれからをより良くするためのチャンスに変えること-----これが私達に与えられた課題だと思う。

基本的に地蔵通りは、何かつくりかえるのではなく、今のままを保てるようにする。「今のままを保つ」というのは、「地蔵通りは街の人がそこに来る人と一緒に日々街を変え成熟させて行くというスタイル」を保つということである。白山通りは現にいま提案されているように、生まれる前から計画されていて、均質で統一されたすっきりとしたイメージにし、ごちゃごちゃしてにぎやかなイメージの地蔵通りとは異なる雰囲気になりたい。

<テーマ・キーワード>

地蔵通り商店街の「中高年ターゲット」は変えない

白山通りと地蔵通りは別の雰囲気&役割でそれぞれ発展

来訪者のために全てを変えるのでは100%観光地に。ちょっと不便でもコミュニケーションでカバーする

地蔵通り(旧中仙道)の入り口や真性寺、高岩寺の参門を重要視する

休憩所、トイレ、歩道橋は量より質

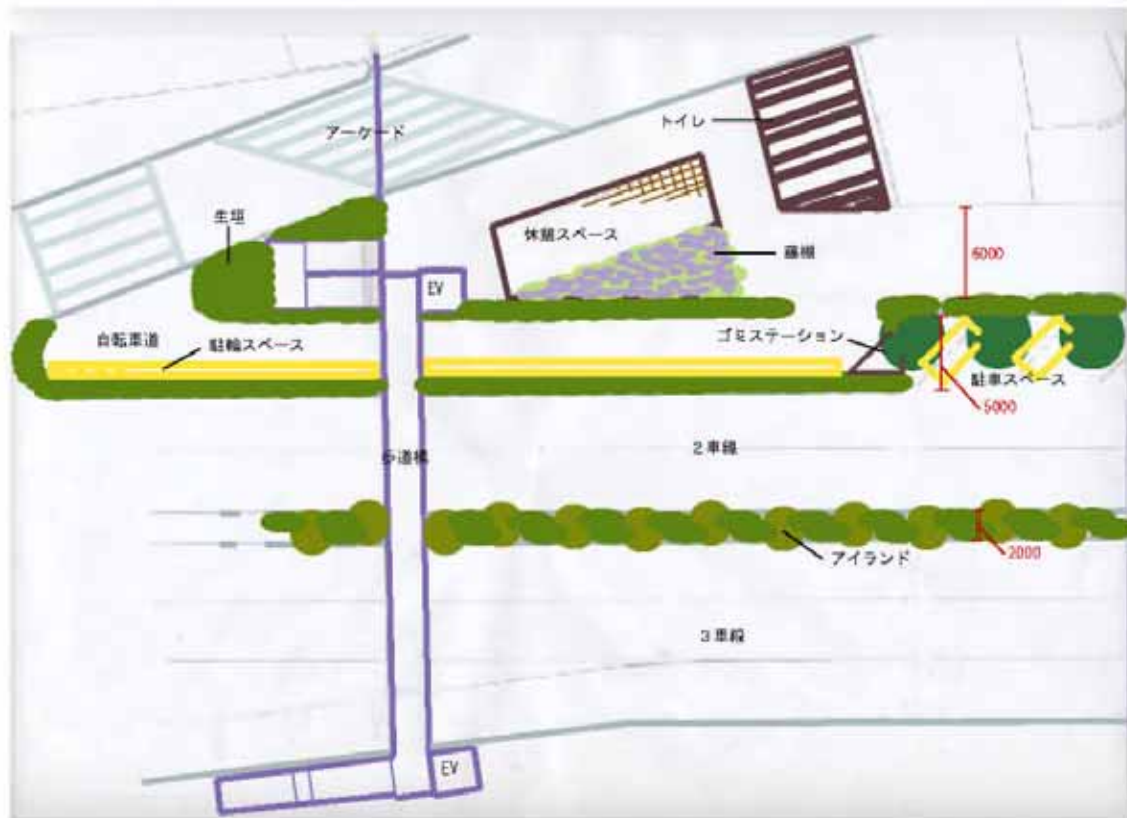
昔の立場だった庚申塚の雰囲気をどこかに感じさせる

白山通り----年齢層なし、落ち着き、接客&対話、レトロ、懐かしい etc

地蔵通り----中高年中心、にぎやか、ショーウインドウ系、新しい etc

巣鴨に通って感じたこと、街の人(店の人&来訪者)と話して気づいたことと以上のテーマをもとにこれからの巣鴨を提案する。

入り口休憩スペース



拡幅計画が特に交通量の増加によるものではない

地蔵通りの来訪者（歩行者）が多い

地蔵通りとしての「みち」の入り口を明確に残す

車両でなく人（歩行者）優先

アーケード&歩道橋&エレベーター → シンボル
(現アーケードと同じデザイン)

安全性・景観 → 自転車道兼駐輪スペースと
歩行者・休憩所の分離、エレベーターの設置

藤棚と篠屋根の休憩所 : 可動式篠で日差しを避ける
藤棚観賞
解体して祭りや縁日など多用途に使う

トイレ : 現高岩寺トイレと同規模、外観は休憩スペースと調和を図る

ゴミステーション : 地蔵通り側に丸出しにせず扉付きの囲いに入れ、反対がわの駐車スペースから回収できるかたちをとる

白山通り歩道



歩道と生垣を挟んで駐車スペース : 消防署付近までで80台近く駐車可能

1台1台は斜めに駐車、間に植えられた木々が並木をつくる

地蔵通り側1車線の1部にハンプを設置 ー 速度を落として騒音を少なくする

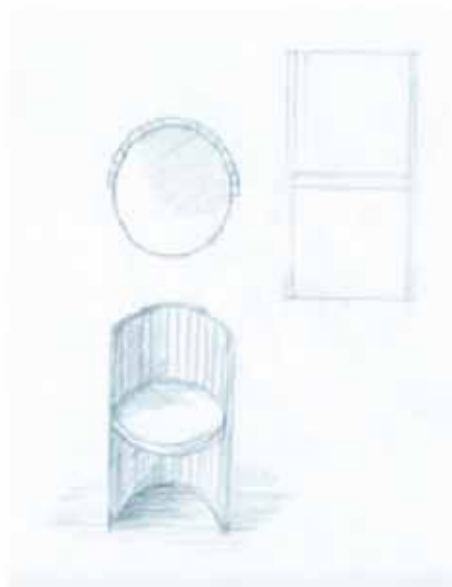
白山通りにはカフェ等飲食店が入ると推測

生垣の脇に照明を備えた腰掛を設置

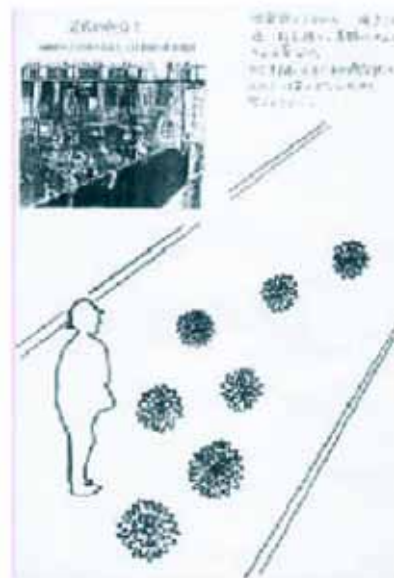
現在地蔵通りの歩行者はあまり休憩所部即を感じていない

高岩寺裏は駐車スペースを植栽スペースに : 地蔵通りや高岩寺境内から見た時に木々が見え、寺を宗教空間として守る

その他



休憩スペースのイスのデザイン



地蔵までのサイン(菊の絵)